

事業報告

令和 6（2024）年度



社会福祉法人 福島いのちの電話

いのちの電話とは

☆ 様々な問題を抱えながら孤独の中で、相談する人もなく不安な生活をし、精神的危機にある人たちが多数います。このような人たちが自殺の危機に追い込まれることがあります。

「死ぬほどつらい、誰かに聴いてほしい」と。

☆ ひとり悩み苦しんでいる人たちが、私たちのまわりには数多くいます。「いのちの電話」は、このような人たちに電話を通じて心を通わせ、よき隣人として相談相手となって励まし合うボランティア活動です。

☆ 「いのちの電話」は1953年ロンドンで始められ、現在では世界の主な都市に設立されています。日本では1971年に東京に開設され、現在は全国に50のセンターが設置されています。6,500人以上のボランティア相談員が年間約70数万件の相談を受けています。

☆ 「いのちの電話」は、特定の宗教や思想・信条などに左右されず一人ひとりのいのちを大切にして、悩んでいる孤独な人たちのよき隣人として、また相談相手として、共に生きる輪を広げていく運動です。

☆ 相談は、専門家による約2年間の研修を受け、認定されたボランティア相談員が担当しています。相談の秘密は厳守いたします。

目 次

1. はじめに	1
2. 福島いのちの電話概況	2
3. 「福島いのちの電話」が受けた相談について	3
4. 令和6(2024)年度事業報告	8
5. 令和6(2024)年度資金収支計算書・貸借対照表	12
6. 令和7(2025)年度事業計画・資金収支予算書	14
7. 組織図	17
8. 役員名簿	17
9. 令和6年度ご支援下さった方々	18
10. 寄付金等でご支援下さった方々	26
11. 各種団体等からの補助金・助成金	29

はじめに

皆様には、日頃より福島いのちの電話の活動への深いご理解のもと、格別のご支援をいただき心より御礼申し上げます。お陰様をもちまして、福島いのちの電話は、365日無休の〈通常電話相談〉のほか、毎月10日の〈24時間自殺予防フリーダイヤル〉、そして「SNS相談」、「メール相談」及びジョイントさせた〈ふくしま寄り添い「予約制」フリーダイヤル〉など、ICTを活用した相談事業をつつがなく実施することが出来ました。これはひとえに、会員はじめ多くの皆様方のご協力の賜であり、改めて感謝申し上げます。

さて、令和6年における全国の自殺死者数は20,320人で、令和5年より1,517人の減少、男女別では男性が前年から1,061人減少、女性は456人減少となりました。しかしながら小中高校生の自殺者数は529人であり、前年対比16人増加しており、統計のある1980（昭和55）年以降で最多となり、極めて憂慮される事態となっております。

福島県の状況をみると、令和4年380人、令和5年390人そして令和6年362人と高止まりの状況で推移しており、いまだに危機的状況が続いております。

いのちの電話は、独りぼっちで悩み、その辛さに打ちひしがれている方にとっての「良き隣人」として、その苦しい心に寄り添い、心を聴くための電話相談でありますことから、この現実をしっかりと受け止め、なお一層活動の充実に努めなければならないと痛切に感じさせられているところであります。

こうしたことから福島いのちの電話としては、“いのち”の大切さのさらなる広報に努めるとともに、若者に対する「ゲートキーパー養成講習」の取組みをも強化し、「誰をも自殺に追い込まない社会」の実現に貢献して参る所存でありますので、引き続きのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

ここに、改めて皆様のご厚情に対し心より感謝を込め、令和6年度の事業活動等のご報告を申し上げます。

令和7年6月

社会福祉法人 福島いのちの電話

理事長 丹羽真一

福島いのちの電話概況

- 設 立：平成 9（1997）年 9 月 1 日
社会福祉法人認可：平成15（2003）年 8 月25日
- 組 織：評議員 8 名、理事 8 名、監事 2 名、特別顧問 2 名、
顧問 8 名、会員1,679名
- 電話相談員数：令和 7 年 4 月 1 日現在：84名（実働80名）
電話相談件数：（令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月）：9,193件
電話相談時間：【通常電話】：毎日10：00～22：00
毎月第 3 土曜日10：00～翌日10：00まで24時間
【日本いのちの電話連盟「自殺予防フリーダイヤル」】
毎月10日 8：00～翌日 8：00まで24時間
【ふくしま寄り添い<予約制>フリーダイヤル】
毎日 10：00～22：00（但し、3 日前までに予約）
【日本いのちの電話連盟「全国ナビダイヤル」】
毎日 10：00～22：00
- 相談受付回線数：2 回線
- メール相談：ホームページから相談フォームへ。原則、5 日以内に返信。
- S N S 相談：令和 6 年 7 月 1 日より正式実施。
毎週月曜日16：00～20：00
- 相談員養成：相談員養成研修第 1 課程・第 2 課程・第 3 課程（インターン研修）
- 継続研修：全相談員対象、全体研修（年 2 回）、グループ研修（年10回）、スーパーバイザーによる個別指導（年 1 回）
- 運 営：年間予算約18,000千円、財源は主として会員等の会費、寄付金、県の補助金及び公的団体の助成金
- 全国組織：一般社団法人日本いのちの電話連盟
加盟53センター（令和 7 年 3 月現在）

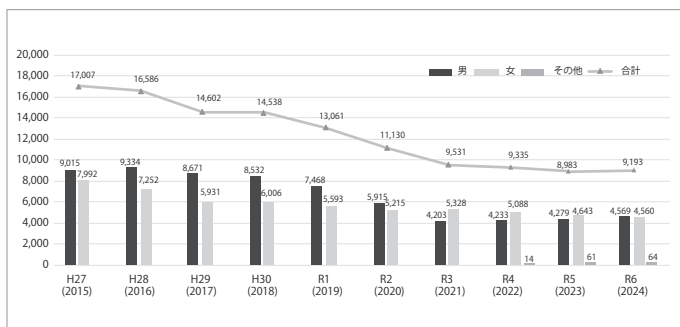
『福島いのちの電話』が受けた相談について

平成9年9月1日の開局以来、令和7年3月31日までに福島いのちの電話が受けた電話相談は368,834件で、1日当たりになると36件ほどになります。しかし、令和4年、5年、6年度と1万件を下回る事態となっていますが、これは新型コロナウイルスの蔓延による相談員周囲の事情や自身の体調不安などから、相談電話の担当が大きく制約され、ここ3年間、取り分け令和5年度は、最多であった平成25年度（18,194件＝50件／日）の半分以下の8,983件（25件／日）の対応となってしまいました。因みに、この間においての電話相談の状況は、従前とは異なっていることがデータとして現れています。

福島いのちの電話への電話相談は、開局当初から男性の割合が絶対的に高く、平成29年度にあっては男性59%、女性41%という状況でした。ところが、コロナ禍によって一変した世相を反映したのか、令和3年は男性44%、女性56%と逆転し、令和4年度も男性45%、女性55%と女性からの電話相談が、圧倒的に多かったが、令和6年度は男性50%、女性50%と女性と男性からの電話相談が同数になっております。また、LGBTQと言われる性別が特定できない「その他」の件数が64件となり、これは前年の5倍ほどにもなっています。

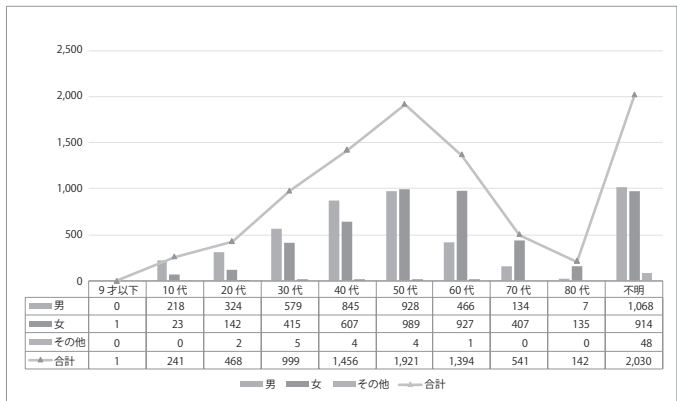
過去10年間の年別相談件数の推移

	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1年 (2019)	R2年 (2020)	R3年 (2021)	R4年 (2022)	R5年 (2023)	R6年 (2024)
男	9,015	9,334	8,671	8,532	7,468	5,915	4,203	4,233	4,279	4,569
女	7,992	7,252	5,931	6,006	5,593	5,215	5,328	5,088	4,643	4,560
その他	0	0	0	0	0	0	0	14	61	64
合計	17,007	16,586	14,602	14,538	13,061	11,130	9,531	9,335	8,983	9,193



○相談の年代別状況

相談件数を年代別にみると、全体では50代が最も多い1,921人で、不明を除く全体の26.8%、次いで40代の1,456人で全体の20.0%、60代が1,094人で全体の19.4%となっており、この3世代で全体の約7割を占めています。なお、10代、20代の若い世代の電話相談の状況をみると、不明を除く全体の9.8%と昨年度と同様な形になっています。



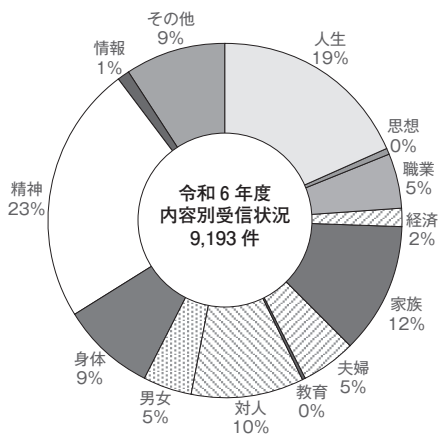
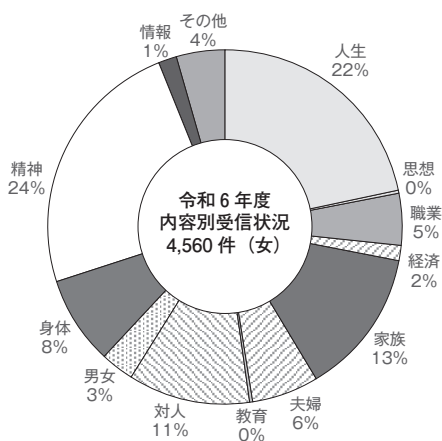
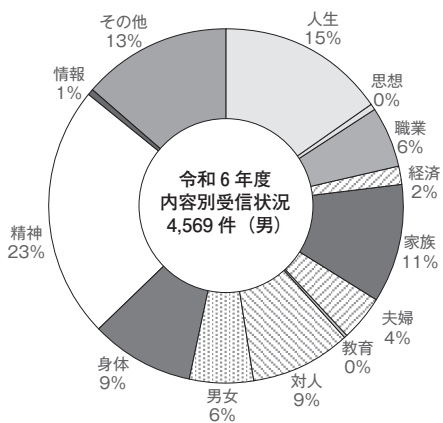
○相談の内容別状況

日本いのちの電話連盟の相談内容分類に基づく分類では、「その他」を除いた割合でみると、「精神」25.7%、「人生」20.3%、「家族」13.1%の順となり、この3つで、は相談内容の6割の状況にあります。

なお、「精神」の項目が「人生」を上回るのは4年振りのこととなりますが、ここ4年間はコロナ蔓延という社会的不安から、「人生」の小項目となる<孤独><コロナ>に関する相談が多くを占めていました。しかし、コロナの5類移行が影響したのか、令和5年度以降は、再び「精神」の中の小項目<うつ><統合失調症><自傷行為>などの相談が多くみられるようになりました。

令和6年度相談内容別受信状況

	人生	思想	職業	経済	家族	夫婦	教育	対人	男女	身体	精神	情報	その他	合計
男	705	21	257	81	489	189	10	428	269	426	1,051	33	610	4,569
女	990	18	210	72	602	279	15	505	144	364	1,094	67	200	4,560
その他	7	0	3	0	4	2	0	4	4	5	3	1	31	64
合計	1,702	39	470	153	1,095	470	25	937	417	795	2,148	101	841	9,193

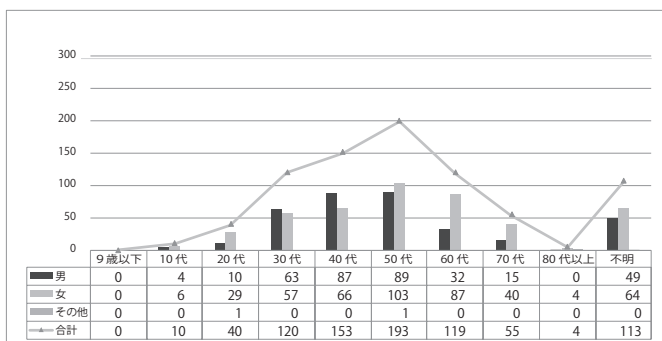


○自殺を訴えた相談件数

電話相談の中では、「生きているのが辛い」「消えてしまいたい」「生きている意味が分からない」など、自殺傾向の強い言葉を聴くことも少なくありません。こうした自殺傾向のある相談件数は807件で、全体の8.7%で昨年より1ポイント減少しています。

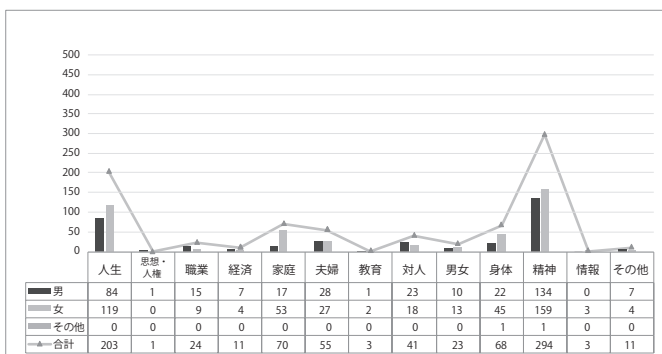
○自殺傾向の年代別の状況

自殺傾向の年代別の電話は、不明を除いた全体でみると50代が23.9%、次いで40代が18.9%、そして60代の14.7%と続き、この3つの年代で全体の約6割を占めております。年代別自殺者数において、福島県の電話相談では「自殺を訴えた」80代以上の人が、昨年度の9人から4人と半減しております。



○自殺傾向の内容別の状況

自殺傾向の電話を内容別にみると、「精神」が全体の36.4%、「人生」が25.1%となっており、この2つで全体の6割を超えています。中でも、「精神」にあっては<うつ>、「人生」にあっては<孤独>が大きな比重を占めています。



○ふくしま寄り添い＜予約制＞フリーダイヤル

この電話の特長は、3日前までに予約設定をすれば、予約設定時刻に「こちらから電話を掛ける」、つまりアウトリーチ対応となることです。

＜予約制＞F D受信状況

(2025.3.31現在)

令和6年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	累計 (件)
着信件数	25	19	31	30	15	21	16	19	14	18	22	31	261
予約件数	5	2	3	4	4	3	0	3	1	1	1	2	29

○福島いのちの電話「メール相談」

この相談の特長は、相談者に対し5日以内に返信文を送信することと、＜予約制＞フリーダイヤルとジョイントさせていますので、リアルタイムでの相談も可能になることです。

メール相談受信件数

(2025.3.31現在)

令和6年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	累計 (件)
受信件数	9	8	10	5	1	1	5	2	5	3	3	1	53
返信件数	9	8	10	5	1	1	5	2	5	3	3	1	53

*月の受信件数と返信件数の乖離は、①相談内容の確認、②予約制F Dの連絡、③返信が翌月。

○福島いのちの電話「SNS相談」

2023年度の4シリーズのトライアル事業を検証し、2024年度7月以降「SNS相談」事業の本格的展開を図りました。

「SNS相談」事案概要

(2024.7.1～2025.3.31)

リピート率	相 談 者 実 数	メッ セー ジ 総 件 数	相 談 者 メッ セー ジ件数	相 談 員 メッ セー ジ件数
64%	109名	3,263件	1,971件	1,292件

令和 6 (2024) 年度事業報告

I 主要事業の活動状況

1. 電話相談

(1) 通常電話相談 (024-536-4343)^{しみじみ}

・受信時間 (毎日) 10:00~22:00

・毎月第3土曜日 10:00~翌日10:00までの24時間

(2) 日本いのちの電話連盟「自殺予防フリーダイヤル」に参加^{なやみ} (0120-783-556)^{こころ}

・毎月10日~11日 8:00~翌日8:00までの24時間

(3) ふくしま寄り添い<予約制>フリーダイヤル (0120-556-189)^{こころ} ^{いちばんはやく}

・毎日10:00~22:00 (但し、3日前までに予約。予約時間に、こちらから電話を掛ける)

(4) いのちの電話「全国共通ナビダイヤル」 (0570-783-556)^{なやみ} ^{こころ}

・毎日10:00~22:00

* 電話受信総件数 (令和6年4月1日~令和7年3月31日)

○総件数: 9,193件 (前年 8,983件)

＜うち自殺傾向の件数: 807件 (前年845件)＞

○ふくしま寄り添い<予約制>フリーダイヤル 29件

(アクセス件数261件)

2. メール相談

・相談メール受信数 53件 返信件数 53件

3. SNS相談 (2024. 7. 1~2025. 3. 31)

○相談者実数 109人

・クライアントメッセージ件数 1,971件

・オペレーターメッセージ件数 1,292件

4. 相談員養成研修及び継続研修等

(1) 第25期生養成研修 2 課程 4 名

(2) 第26期生養成研修 第1 課程 10名

(3) 相談員継続研修 (相談員全員対象)

① グループ研修 (継続研修): グループを構成し月1回実施

② 全体研修 (春・秋の2回開催)

③ 個人スーパービジョン: 全相談員年1回

5. 相談員の認定

(1) 継続委嘱相談員数 80名 (令和7年4月1日現在)

(2) 新規認定相談員数 (第25期生) 4名

(3)実働相談員数

80名（令和7年4月1日現在）

6. 公開講座の開催

・春季公開講座（相談員募集説明会）

回	月 日	場 所	講 師
第1回	5月11日（土）	テルサホール	福島LL前副理事長 玄永牧子
第2回	5月18日（土）	郡山市 総合福祉センター	福島県立医科大学講師 佐藤利憲
第3回	5月25日（土）	テルサホール	針生ヶ丘病院勤務 大森洋亮
第4回	6月1日（土）	郡山市 総合福祉センター	福島県立医科大学准教授 桃井真帆

7. 財政基盤の確立

(1)会員寄附金（会費）収入 6,786,483円

（前年度実績額 6,411,592円）

個人会員 1,761,000円（同 1,991,000円）

法人会員 2,193,000円（同 1,528,000円）

賛助会員 2,832,483円（同 2,892,592円）

(2)一般寄附金収入 1,883,770円（前年度実績額 1,868,226円）

(3)補助金・助成金等の実績

①福島県自殺対策緊急強化事業民間団体補助金 4,200千円

②福島県セーフティネット自殺予防補助金 4,000千円

③福島県共同募金会配分金 300千円

8. 広報活動の強化

(1)広報誌64号の発行

(2)相談員募集広報の強化（新聞広報等）

(3)ホームページの充実

9. 支部活動の推進

(1)郡山支部

①総会 令和6年7月27日 郡山市総合福祉センター

②公開講座の開催 令和6年7月27日 郡山市総合福祉センター

講師 公益財団法人星総合病院法人看護部長 久保木優佳

演題 『人生の最終段階における安心と尊厳』

(2)喜多方支部

①総会 令和6年6月17日 喜多方総合福祉センター

②シンポジウムの開催 令和6年10月26日 會津稽古堂

テーマ 『いのちを見つめる』

10. ゲートキーパー養成事業

- ・令和6年度ゲートキーパー養成事業
受講者総数569名（前年受講者数687名）
- ・田村市20名（1）、田村市48名（2）、伊達市50名、只見町21名、西会津町22名、飯舘村30名、二本松市48名、磐梯町社協20名、西郷村84名（1）、西郷村93名（2）、西郷村民生員40名（3）、県精神保健福祉士会34名、(株)アポロガス57名

Ⅱ 役員会、各委員会等の開催

1. 理事会、評議員会

回	期 日	理 事 会	評 議 員 会
第1回	令和6年 6月1日	議 案 ①令和5年度事業報告・収支決算（案）について ②人事案件（顧問の推薦、業務執行理事の選定、事務局長の選任） ③令和6年度第1回評議員会の招集について 報告事項 ①令和6年度連盟新規事業への参加について ・能登半島地震支援〈予約制ダイヤル〉 ・いのちの電話〈168時間FDトライアル〉事業 ②東北ブロックSNS相談デモンストレーションについて ③“いのち”の大切さを考えるシンポジウムについて	
	令和6年 6月11日		議 案 ①令和5年度事業報告・収支決算（案）について 報告事項 ①「顧問の推薦」「業務執行理事の選定」「事務局長の選任」 ②令和6年度日本いのちの電話連盟事業への参加 ・能登半島地震支援〈予約制ダイヤル〉 ・いのちの電話〈168時間FDトライアル〉事業 ③東北ブロックSNS相談デモンストレーションについて ④“いのち”の大切さを考えるシンポジウム
第2回	令和7年 3月1日	議 案 ①令和7年度事業計画・予算（案）について ②令和6年度第2回評議員会の開催について 報告事項 ①令和6年度春季公開講座の開催について	
	令和7年 3月10日		議 案 ①令和7年度事業契約・予算（案） 報告事項 ①令和7年度春季公開講座の開催について

2. 各委員会等の活動及び各種会議の開催

(1)運営委員会 おおむね隔月ごとに年6回開催した。

(2)各委員会

総務・財務委員会、広報委員会、研修委員会、相談委員会、調査研究委員会、公開講座実行委員会を定期的に開催した。

令和 6 (2024) 年収支計算書

(令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月31日)

〈収入の部〉 (単位：円)

科 目	決算額(円)	摘 要
会 員 寄 附 金	6,786,483	個人維持会員、団体維持会員、賛助会員
一 般 寄 附 金	1,883,770	県民共済、篤志家等からの寄附金
福 島 県 補 助 金	8,200,000	福島県自殺対策緊急基金、セーフティネット補助金
共同募金分配金	300,000	共同募金配分金
負 担 金	1,137,997	受講生負担金 (25期4名、26期10名) 支援プログラム
受取利息配当金	2,689	預金利息
そ の 他 雑 収 入	10,000	
合 計	18,320,939	

〈支出の部〉 (単位：円)

科 目	決算額(円)	摘 要
事 業 費	8,384,354	相談員養成・継続研修、ゲートキーパー講習、メール相談等
事 務 費	4,527,843	賃借料、通信運搬費、会議費、連盟負担金、事務諸経費等
人 権 費	5,524,476	非常勤 5 名、事務補助パート 2 名
当期資金収支差	△ 115,734	
合 計	18,320,939	

*連盟事業〈福島支援プログラム〉＝1,250,000円

＜予約制＞FD、メール相談、SNS相談、ゲートキーパー連携センター運営

令和 6 (2024) 年度貸借対照表

(令和 7 年 3 月31日現在)

(単位：円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	3,215,192	流 動 負 債	1,507,595
現 金 預 金	2,796,013	未 払 費 用	1,507,595
未 収 金	134,000	固 定 負 債	0
立 替 金	120,214	負債の部合計	1,507,595
前 払 費 用	164,965	純資産の部	
固 定 資 産	11,816,480	基 本 金	10,000,000
基 本 財 産	10,000,000	国庫補助金等特別積立金	1,415,724
定 期 預 金	10,000,000	その他の積立金	0
その他の固定資産	1,816,480	次期繰越活動増減差額	2,108,353
建物附属設備	1,464,557	(うち当期活動増減差額)	(197,984)
器具及び備品	38,377		
権 利	313,545		
ソフトウェア	1	純資産の部合計	13,524,077
資 産 の 部 合 計	15,031,672	負債及び純資産の部合計	15,031,672

監 査 報 告 書

令和7年5月30日

社会福祉法人福島いのちの電話

理事長 丹 羽 真 一 殿

監 事 丹 治 正 男 

監 事 大 出 隆 秀 

私たち監事は、令和6年4月1日から令和7年3月31日までの令和6年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告及びその付属説明書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類（計算書類及びその付属明細書）及び財産目録について検討いたしました。

2 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

(2) 計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上

令和 7 (2025) 年度事業計画

1. 事業計画策定にあたっての基本方針

警察庁統計（確定値）における全国の自殺死者数は20,320人で前年より1,517人減少しておりますが、小中高校生は529人と過去最多となっています。

福島県の状況を見ても令和4年380人、令和5年390人そして令和6年362人と高止まりの状況で推移しており、いまだに危機的状況が続いている。

こうした状況を踏まえ「福島いのちの電話」における2025年度の活動方針は「相談活動の充実・強化」、「相談環境の整備」、「広報活動の充実・強化」図りつつ、国及び県の自殺対策の方向性を踏まえ、若者に対する「ゲートキーパー養成講習」の取組みを強化していくこととする。

なお、今年度の事業計画の変更であるが、県からの補助金が大幅に減額となったため、「メール相談」事業、「SNS相談」事業、そしてシンポジウム開催を、経費節減のためを中止することとした。

2. 事業計画の概要

(1) 相談活動の充実・強化

ア. プロパー電話相談の実施

(024-536-4343 毎日10:00～22:00 毎月第3土曜日は24時間)

イ. 連盟事業「全国自殺予防フリーダイヤル」への参加

(0120-783-556 毎月10日 8:00～翌日8:00)

ウ. いのちの電話「全国共通ナビダイヤル」

(0570-783-556 毎日10:00～22:00)

エ. 相談員養成研修

・第26期生（第2課程）

・第27期生（第1課程）

オ. 相談員研修の充実

①相談員養成研修

・グループ研修（年10回）

・個人スーパービジョン（年2回）

・全体研修（春・秋の年2回）

②内部リーダー養成特別研修

③外部の研修会への参加

・電話相談学会（オンライン開催）

・全国研修担当者セミナー

(2) 組織体制の整備充実

ア. 運営委員会及び各委員会等の定例開催による委員会活動の活性化

イ. 支部活動の活性化、本部と支部の連携強化

ウ. 連盟事業「ゲートキーパー連携センター」との協同

- (3) 財政基盤の整備
 - ア. 資金ボランティア会員の増強
 - イ. 公的助成金充実への取組み
- (4) 相談環境の整備
 - ア. 相談員ケア体制の充実（ケアのためのSV、ケア会議の開催等）
 - イ. 相談電話の双方向録音によるスキルアップ
 - ウ. 他センター相談員との交流事業
- (5) 広報活動の強化
 - ア. 広報誌発行（年２回）
 - イ. ホームページの充実
 - ウ. 相談員募集広報の強化（ライン広報、新聞広報等）
- (6) 相談員・研修担当者のケア
 - ア. 相談員ケアに関する他センター訪問に基づくケアハンドブックの作成
 - イ. 研修担当者のケア
- (7) 公開講座等の実施
 - ア. 相談員養成の前提となる春季公開講座の開催（福島市２回・郡山市２回）
- (8) ゲートキーパー養成講習の受託、講師派遣
 - ア. 高校生・専門学校生・大学生への出前養成講習の開催（無料）
 - イ. 一般行政・社会福祉協議会等への養成講習の開催（有料）
 - ウ. 養成講習の種類
 - ①プレ・ゲートキーパー養成講習
 - ②プライマリーコース（初心者対象）
 - ③ステップアップコース（プライマリーコース受講修了者対象）

令和 7 (2025) 度資金収支予算書

(2025年 4 月 1 日～2026年 3 月31日)

＜収入の部＞

(単位：円)

科 目	金 額	内 訳
会 員 寄 附 金	6,750,000	維持会員(個人・団体)、賛助会員(個人・団体)
一 般 寄 附 金	1,600,000	
福 島 県 補 助 金	6,200,000	自殺対策補助金4,200千円、コロナ対策補助金4,000千円
共 同 募 金 会	300,000	シンポジウム開催費
負 担 金	740,000	25期 (5 名)、26期 (20名)
雑 収 入	13,000	
合 計	15,603,000	

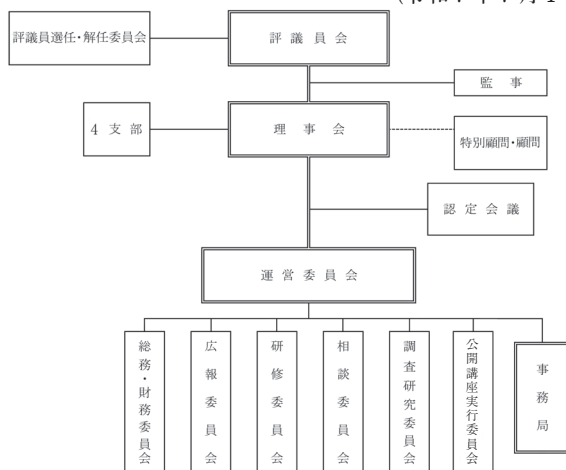
＜支出の部＞

(単位：円)

科 目	金 額	内 訳
事 業 費	7,089,000	養成・継続研修、シンポジウム、電話・メール・SNS相談
事 務 費	3,714,000	賃借料、会議費、事業報告書
人 件 費	4,800,000	事務職員 1 名、非常勤 4 名、事務補助 3 名
合 計	15,603,000	

社会福祉法人福島いのちの電話組織図

(令和7年7月1日)



役員名簿 (令和7年7月1日現在)

●特別顧問

遠藤 道雄 茂田 士郎

●顧問

遠藤 忠一 玄永 牧子 甚野源次郎 濱田千恵子
星野 仁彦 望木 昌彦 山川 彬 横山 光衛

★評議員会

石橋 真一 内山 清一 神戸 信行 紺野 学
齋藤 記子 佐藤 倫子 高野 武彦 村田 純子

☆理事長

丹羽 真一

☆副理事長

柳沼 純子

☆業務執行理事

遠藤 智子

☆理事

今野 孝敏 三瓶 弘次 遠藤 栄子 堀切 伸一
村上 敦浩

◎監事

大竹 隆 遠藤 俊博

○事務局長

田邊 実

令和6年度ご支援下さった方々

福島いのちの電話の運営のために、次の方々にご支援いただきました。誠にありがとうございました。これからもご支援ご協力くださいますようお願い申し上げます。(敬称略、順不同)

1. 個人維持会員

アイル薬局住吉店 赤津 雅美				阿部 倫子
阿部 裕光	阿部裕美子	安斎 征治	穴澤 正行	
秋元登志夫	青木 英子	青木 照大	網代 智明	
藍原 政信	藍原 裕子	有馬 美代	伊藤美知子	
伊藤 達也	伊藤 典和	井上 茂	五十嵐節子	
五十嵐千穂	石井 浩	石井 幹子	石下 恭子	
板垣 茂	板橋 俊子	飯塚 卓	海野志ん子	
内山三津男	内山 清一	遠藤 俊博	遠藤 道雄	
遠藤 智子	江河 佑	岡田 麻紀	大出 隆秀	
亀岡 偉民	香山 雪彦	菅野 光枝	菅家八栄子	
菅野 建二	菅野 光代	菅野 藤江	菅野 民江	
菊嶋 健一	菊田 則雄	木村 福一	熊谷郁太郎	
黒江 律子	玄永 牧子	古関 君子	近藤 哲	
小堀新一郎	小林 健夫	小林 直樹	佐藤 温史	
佐藤賀津雄	佐藤真智子	佐藤百合子	佐藤 政隆	
佐藤 正美	佐藤 倫子	坂井 絹代	齋藤 美佐	
穴戸 俊子	穴戸 宏行	渋谷 順子	甚野源次郎	
白岩 康夫	鈴木 正吾	鈴木 忠一	関口 祐子	
玉木 仁彦	高橋 年光	高野 武彦	丹治 正男	
丹野 一男	丹羽 真一	丹治千代子	武田 正裕	
唯木トシ子	茶屋 明朗			
つかはら内科クリニック 束原 康文				寺島 長司
洞口 英子	陽田 正夫	中村 基行	中村 礼子	
西山 江美	野地 啓子	羽田 房男	橋本 徹	
長谷川 望	長谷川祐一	萩原久美子	半澤 トシ	
芳賀 裕	引地 正樹	引地 知子	廣川美智子	
美田真理子	平岩 幸一			
弁護士法人鈴木芳喜法律事務所				堀切 伸一
本田 恵一	まちの薬局扇町店 町野 紳			
松谷 彰夫	松本 道子	真山 祐一	増井 寛治	
幕田 郁子	三好 正人	村上 敦浩	村越 栄子	

森 綾子	森 啓子	森藤美津子	望木 昌彦
安田 武吉	山崎誠一郎	八島 恭子	柳内 務
梁川 優子	有馬 美代	遊佐 久男	
吉成内科 吉成 毅		吉田キクエ	吉田 嘉子
吉田 和代	吉澤萬里子	渡部 啓子	渡辺キヨ子
渡辺 康平	渡邊 素子	渡邊 又夫	渡邊 哲也

2. 団体維持会員

明るい社会づくり運動福島・伊達・二本松地区協議会
 医療法人公翁会 千葉医院
 医療法人杏泉堂本間内科 理事長 本間 一男
 医療法人鎌田クリニック 理事長 板垣 茂
 医療法人将文会 かのめガーデンクリニック 院長 宗像 俊一
 医療法人西口クリニック婦人科 理事長 本多 静香
 医療法人待井循環器科内科クリニック 理事長 待井 典剛
 医療法人板倉病院 院長 海野 幸浩
 医療法人桑名医院 桑名 俊光
 医療法人慈心会 村上病院
 一般財団法人ふくしま市町村支援機構 理事長 遠藤 雄幸
 一般財団法人桜ヶ丘病院
 一般財団法人太田綜合病院
 一般財団法人大原記念財団
 一般財団法人竹田健康財団 理事長 竹田 秀
 一般財団法人福島県自動車会議所
 一般社団法人福島県自動車整備振興会
 一般社団法人福島県建設業協会
 岩代ライオンズクラブ 会長 大内 英克
 磐城通運株式会社
 NTT 東日本福島支店
 株式会社 CIA
 株式会社サンライト
 株式会社ハッピーケア 代表取締役 海老根 潤
 株式会社三宅新聞店 代表取締役 三宅 一秀
 株式会社総合コンサルタンツ 代表取締役 最上 諭
 株式会社福島民報社
 株式会社サン・ベンディング福島 代表取締役 千葉 政行
 株式会社ジー・アイ・ピー
 株式会社ひらい

株式会社ボーダレス総合計画事務所 代表取締役 鈴木 勇人
株式会社マルト商事 代表取締役 安島 浩
株式会社環境分析研究所
株式会社山川印刷所 代表取締役 立花 志明
株式会社大丸工務店
株式会社東邦銀行
株式会社同仁社
株式会社日新土建
株式会社福島銀行
きらり健康生活協同組合
北関東空調工業株式会社
コボックス株式会社
公益財団法人湯浅報恩会 寿泉堂綜合病院
公益社団法人福島県トラック協会
公益社団法人福島県看護協会
佐藤工業株式会社
社会福祉法人昌平覺
社会福祉法人なごみ
社会福祉法人厚慈会
社会福祉法人育成会
社会福祉法人緑風福祉会
宗教法人安洞院
大蔵寺 拾井 一豊
東信建設株式会社 代表取締役 佐久間政文
東北電力株式会社福島支店
東北労働金庫福島県本部
特定非営利活動法人エルタ
長橋病院
針生ヶ丘病院
ひろやまメンタルクリニック 廣山 祐治
富久泉工業株式会社
福島テレビ株式会社 代表取締役社長 横山 淳
福島ヤクルト販売株式会社
福島稲荷神社 宮司 丹治 正博
福島県市長会
福島県信用保証協会
福島県図書教材協会
福島県町村会

福島市仏教会
 福島民友新聞株式会社
 保原自動車学校
 南福島ひまわりクリニック
 ミヤデン株式会社 代表取締役 高宮 優子
 矢吹自動車教習所
 有限会社三晃化学工業所
 有限会社福島コスモ商会

3. 賛助会員（個人）

浅野桂太郎	安斎 孝意	安斎 睦男	(匿 名)
上嶋 明彦	遠藤 忠一	大木内科医院	大木 厚
大和田清司	金澤 博信	熊代 永	栗林 正樹
黒河内 彰	佐々木慶子	佐藤 由美	坂本 和司
佐野 勝俊	穴戸 幸雄	柴山 邦雄	柴田 裕子
鈴木 和子	田中 文博	茶屋 明郎	永井 久雄
長谷川尚子	堀田 敬之	松本 純	吉田 英策
若林ヤエコ 愛		渡辺とくい	

4. 賛助会員（団体）

ありがクリニック 有賀 清
 医療法人敬仁会 なかのクリニック
 医療法人社団慈泉会 南湖こころのクリニック
 医療法人社団石福会 四倉病院
 医療法人落合会 東北病院
 一般社団法人福島県医師会
 NTT 東日本福島
 鏡石ライオンズクラブ
 かねこ内科・外科クリニック
 株式会社テレビユー福島
 株式会社トヨタレンタリース福島
 株式会社原町自動車教習所
 株式会社松崎
 株式会社民報アド
 小林土木株式会社
 白河南ロータリークラブ
 生活協同組合コープあいづ
 ノートルダム修道院

福島ロータリークラブ
堀江工業株式会社
南福島ひまわりクリニック
有限会社みどり薬局
立正佼成会茨城教会

5. 喜多方支部・個人維持会員

青山 榮子	穴澤 高子	荒川 節子	荒川 裕子
青木 照夫	五十嵐 聡	五十嵐 智	五十嵐知枝
伊勢亀幸男	一ノ瀬知恵	岩田 綾子	上野 啓介
梅宮 大樹	梅宮 美喜	遠藤 貴子	遠藤 次男
遠藤 敏子	遠藤 英昭	遠藤 寛	遠藤 昌幸
遠藤美智子	大関さち子	大竹小百合	大塚 香子
大野 京子	大原 尚子	大森志津子	小椋 和洋
笠間 敬子	風間 俊恵	神蔵 良太	唐橋 和美
唐橋 美香	川口 良平	川口 理香	北見美代子
草刈 牧子	小林 弘子	小松 祐子	齋藤マサ子
齋藤 祐子	坂本真理子	相良 静雄	相良 由紀
佐々木恵津子	佐藤 富子	佐藤 秀夫	佐藤 美穂
佐藤 恵	佐野 圭一	鈴木 敏憲	鈴木 貴子
鈴木ちひろ	鈴木 優子	鈴木 幸奈	須藤 茂樹
須田 栄晋	須田 恭広	須藤 俊弘	清野 弥生
清野 洋一	関本 克聡	高橋 美幸	立川 貴之
田中 喜作	田中 幸悦	棚木 加奈	田部 芳枝
田部 芳子	東條 孝雄	東條千登勢	外島千鶴子
富山 雅子	豊子 光代	生江 恭子	成田 美穂
西 浩美	二瓶 藤一	橋谷田真由美	花見 博文
原 倫子	平田 広美	平田真由美	広井トヨ子
藤澤 廣子	榊川 恵	松尾 勝貴	松下 智明
松本 恵美	三橋 亜美	皆川 共子	武藤 顯夫
武藤喜代次	武藤 陽子	武藤 良太	村澤 健一
室井麻富花	物江 昌子	矢部 薫	山内智恵子
山口 愛子	山口 史明	横山 憲一	吉川 昭
渡部 敬二	若林 大蔵	渡辺 慶子	渡部 忠寛
渡辺 俊明	渡部みい子	渡部 孝一	渡部 要子
渡邊 幸子			

6. 喜多方支部・団体維持会員

会津喜多方商工会議所
会津よつば農業協同組合
明るい社会づくり運動喜多方地区協議会
一般社団法人喜多方医師会
喜多方グリーンホテル
喜多方市熱塩加納町民生児童委員協議会
喜多方市熊倉町民生児童委員協議会
喜多方市塩川町民生児童委員協議会
喜多方市食生活改善推進員会
喜多方市第一区民生児童委員協議会
喜多方市第二区民生児童委員協議会
喜多方市豊川町民生児童委員協議会
喜多方市ボランティア連絡協議会
喜多方市松の木女性コーラス
喜多方市民活動サポートネットワーク
喜多方市役所課長会
喜多方市役所部長会
喜多方市山都町民生児童委員協議会
喜多方市岩月町民生児童委員協議会
喜多方市上三宮町民生児童委員協議会
喜多方市慶徳町民生児童委員協議会
喜多方市関柴町民生児童委員協議会
喜多方市松山町民生児童委員協議会
喜多方市高郷町民生児童委員協議会
国際ソロプチミスト喜多方

7. 喜多方支部・賛助会員

猪俣 慧 上野 光子 大建工業有限会社
古川 英雄 真部 賢二

8. 南相馬支部・個人維持会員

朝倉美智子	伊賀 淳	石垣 清子	石橋 三男
太田 光秋	金澤 幸夫	熊倉 徹雄	佐藤 一男
佐藤 清彦	島田まゆみ	高根 富三	中尾 誠利
長岡 利幸	番場三和子	平戸 隆子	湊 清一
村上 勇一	村田 秀人	村田 純子	門馬 孝子
渡部 喜照			

9. 南相馬支部・団体維持会員

一般社団法人原町青年会議所
医療法人茶畑会相馬中央病院
NPO 法人ほっと悠
株式会社原町日通自動車修理工場
関場建設株式会社 代表取締役社長 関場 直隆
東北建設株式会社
ニッソーレンタリース株式会社 代表取締役 日下 匡美
日本オートマチックマシン株式会社原町事業
原町建設機械株式会社
原町赤十字奉仕団
ほりメンタルクリニック 堀 有伸

10. 南相馬支部・団体賛助会員

医療法人社団茶畑会 相馬中央病院
株式会社原町中央自動車教習所

11. いわき支部・個人維持会員

阿部 聖子 岡本 恒夫 高蔵寺 木村 照典
鈴木修一郎 立花 スエ 中野 真理 根本 克治
馬目 重信

12. いわき支部・団体維持会員

明るい社会づくり運動小名浜常磐地区協議会 事務局長 山添 公重
明るい社会づくり勿来地区協議会 内田 一久

13. いわき支部・賛助会員

谷口 孝一

14. いわき支部・団体賛助会員

株式会社平中央自動車学校

15. 郡山支部・個人維持会員

安斎 春江	安斎 洋子	安藤テル子	安部 寿美
穴澤 初美	厚海 留美	青山 玲子	網田 雄治
安瀬ちえ子	安藤 徹	荒井 祐子	伊佐 香苗
伊藤 典子	井上 好恵	井田川春子	岩崎 敦子
岩瀬左代子	岩崎 恵子	石田 宏寿	飯村 亜以

飯島 直子	猪俣 浩一	猪俣美和子	磐瀬 祐子
歌川 恵子	上野 和恵	上野 春菜	薄井真理子
遠藤めぐみ	遠藤美佐子	遠藤 絵美	遠藤 元子
江間久美子	奥山千鶴子	岡部 秀子	小山内恵合
小椋沙由理	小野 喜世	大河原輝子	大橋 敏子
大戸 康子	大山 和子	大森みゆき	大森絵里香
大槻 裕子	大桃たか子	大藤しのぶ	押山 文子
面川ハル子	影山 浩美	影山 貢	影山美保子
加藤まり子	加納 里美	角田 文代	景山かおり
神山 悦子	菅家美和子	菅野多美子	菅野 美喜
菅野美由起	菅野未希子	鎌田 真理	岸波 郁子
菊地かおり	菊地 聡恵	木本沙緒里	久保木優佳
熊坂 忠則	熊田 純奈	桑名 静	黒沢 秀子
國定 俊彦	郷 智子	近藤 チヨ	古宮 功子
後藤英三子	国分 美樹	小丸 知香	小柴 尚子
國分 紘一	國分 明子	近藤まち子	佐久間香苗
佐々木泰道	佐川 翔	佐藤マチ子	佐藤 佳子
佐藤美恵子	佐藤 豊子	佐藤 康子	佐藤 香織
佐藤智佳子	佐藤 留美	佐藤 恵子	佐藤 美枝
坂本美佳子	三瓶 宏美	三澤可能子	相良 淳子
齋藤のぶ子	齋藤 篤子	齋藤 榮子	佐藤 正子
齋藤 マキ	塩田 裕子	城戸 恵子	新国 茂
白戸亀代子	白石とも子	品川 萬里	菅田伊津美
鈴木 待子	鈴木 利光	鈴木奈緒美	鈴木美賀子
鈴木由美子	鈴木 恵子	関 由美子	千田香奈子
添田 啓子	平 信二	高橋 幸子	高橋 絵美
滝田 恵	田井さやか	田母神光男	田母神章子
田邊 実	竹林 和子	田中 澄子	富永國比古
富山美津江	七海 憲枝	生田目早苗	中山 美幸
長尾トモ子	名知 幸恵	西牧 美恵	庭山 知子
布川 早苗	根本由美子	根本ヒロ子	根本登志子
野口美佐子	橋本 由美	橋本 望	橋本 裕子
橋本 昌幸	橋本 早美	長谷川美香	馬場 智恵
八賀 好美	半澤 和	浜津 明美	芳賀 善正
芳賀 信子	樋口 勝子	飛田 操	冬室加代子
藤沢 愛	福本友紀子	古川 熙子	星 美穂子
堀 祐子	松崎佳小里	増子 松代	増子 明香
宮本 順子	三津石恵子	水野 淳子	宗形 明子

宗像智恵子	望月真理子	山口 信雄	箭内 喜訓
八巻 政代	八重樫小代子	八代 育郎	矢部恵美子
柳沼 純子	柳内 敏男	吉成 妙子	吉田 朋子
吉田 恵子	渡部 裕子	渡辺 佳子	渡辺 順子
渡辺 真紀	渡邊サイ子	渡邊 一美	渡邊 良子

16. 郡山支部・団体維持会員

明るい社会づくり運動郡山地区 代長代行 佐藤 政喜
 浅木整形外科医院
 医療法人慈繁会
 株式会社西部開発 代表取締役 丹治 洋
 株式会社エフコム
 国際ビジネス公務員大学校
 佐藤燃料株式会社
 社会福祉法人共生福祉会
 日専連郡山女性部会
 プリンシプル株式会社 代表取締役社長 鈴木 一裕

17. 郡山支部・賛助会員

穴澤 洋美 高橋 恵子 二瓶 克雄 蛇石 郁子

18. 郡山支部・団体賛助会員

公益財団法人星総合病院 森 東
 結いの里竹柳庵

19. 歳末特別寄付

会田美智男 会津よつば農業協同組合喜多方支店
 藍原 裕子 アイル薬局住吉店 赤津 雅美
 青木 照大
 明るい社会づくり運動小名浜常磐地区協議会 事務局長 山添 公重
 明るい社会づくり運動郡山地区協議会 会長代行 佐藤 政喜
 秋元登志夫 安達ライオンズクラブ会長 服部 富男
 阿部裕美子 阿部 成治 安部 泰男 有馬 美代
 安斎 孝意 安斎 春江 安齋 睦男
 有限会社安斎木工所 代表取締役 安斎 康男
 飯島 直子 飯塚 卓 伊賀 淳 石下 恭子
 石澤 好雄 石田 宏寿
 石橋建設工業株式会社 代表取締役 石橋 英雄

一般社団法人福島県医師会
 一般財団法人太田総合病院看護部
 一般財団法人竹田健康財団 理事長 竹田 秀
 一般財団法人福島県自動車会議所
 一般財団法人ふくしま市町村支援機構 理事長 遠藤 雄幸
 伊藤 典和 伊藤美知子
 医療法人社団茶畑会 相馬中央病院
 医療法人社団石福会 四倉病院
 医療法人落合会 東北病院 長橋病院
 医療法人社団慈泉会 南湖こころのクリニック
 医療法人内科・消化器科みつはし医院 理事長 三橋 彦也
 上杉 洋子 内山 清一 海野志ん子 江河 佑
 遠藤 次男 遠藤 智子 円谷 仁子
 大木内科医院 大木 厚 太田 光秋
 太田メンタルクリニック 院長 太田 聖一
 大向 昭子 大桃たか子 岡部 秀子 岡本 恒夫
 有限会社ネットワーク調剤オレンジ薬局湯本南店代取 小野寺六樹
 株式会社サンライト 影山 貢 笠間 敬子
 財団法人金森和心会 雲雀ヶ丘病院 加納 里美
 株式会社西部開発 大表取締役 丹治 洋
 株式会社環境分析研究所
 株式会社サン・ベンディング福島 代表取締役 千葉 政行
 株式会社原町自動車教習所
 株式会社大丸工務店
 株式会社同仁社
 株式会社トヨタレンタリース福島
 株式会社日新土建
 株式会社ハッピーケア 代表取締役 海老根 潤
 株式会社松崎
 株式会社マルト商事 代表取締役 安島 浩
 株式会社三宅新聞店 代表取締役 三宅 一秀
 香山 雪彦 川内村社会福祉協議会 会長 遠藤 雄幸
 菅家八栄子 菅野 民江 菅野 建二 菅野 藤江
 菅野 光代 國定 俊彦 窪 睦子 久保木優佳
 熊谷 泰人 熊代 永 車谷 栄子 黒江 律子
 桑名 利直 三好 正人
 公益財団法人星総合病院 森 東 康善寺
 高蔵寺 木村 照典

郡山東ロータリークラブ 会長 塩田 義智

國分 紘一 小齋 恭子 コパックス株式会社

小林 健夫 小林土木株式会社 近藤 哲

近内 利男 齋藤のぶ子 阪上 通明 坂本 和司

相良 静雄 佐々木慶子 佐々木敏彦 佐々木泰道

郷 智子 佐藤 温史 佐藤 一男 佐藤 順子

佐藤 正子 佐藤 正美 佐藤真智子 佐藤ユキ子

佐藤工業株式会社 佐藤燃料株式会社

佐藤 秀夫 三瓶 弘次 塩見 元彦 穴戸 宏行

渋谷 順子 社会福祉法人厚慈会

社会福祉法人昌平賢 社会福祉法人なごみ

宗教法人安洞院 白戸亀代子 網代 智明

鈴木 恵子 鈴木修一郎 聖光学院高等学校

関口 祐子 添田 啓子 株式会社平中央自動車学校

高根 富三 高野 武彦 高萩八重子 高橋 年光

立花 スエ 田中 澄子 田中 文博 田邊 実

谷口 孝一 玉木 仁彦 田母神章子 丹治千代子

丹治 正男 つかはら内科クリニック 東原 康文

東北労働金庫福島県本部 特定非営利活動法人 エルタ

富塚美貴子 富永國比古 富山美津江 永井 久雄

中野 真理 中村 礼子 生江 恭子 生田目早苗

西山 江美 日本キリスト教会福島伝道所

日本基督教団福島教会 日本基督教団福島伊達教会

丹羽 真一 野地 啓子 芳賀 裕 芳賀 善正

橋本 徹 羽金 淑江 原町建設機械株式会社

株式会社原町日通自動車修理工場 半澤 和

番場三和子 引地 知子 樋口 勝子 平岩 幸一

平田真由美 平戸 隆子 広井トヨ子 廣澤 克子

富久泉工業株式会社

福島稲荷神社宮司 丹治 正博 福島信用金庫

福島民友新聞株式会社 福島ヤクルト販売株式会社

福島YWCA 特定非営利活動法人ほっと悠

保原自動車学校

ほりメンタルクリニック 堀 有伸 堀切 伸一

幕田 郁子 まちの薬局扇町店 町野 紳

松井千穂子 松本 純 真山 祐一

丸三製紙株式会社 三澤可能子 水野 淳子

湊 清一 南福島ひまわりクリニック 宮川えみ子

宮本しづえ	村越 栄子	村澤 健一	村田 純子
毛利 靖子	最上 諭	望木 昌彦	森 綾子
森藤美津子	門馬 孝子	八代嘉津子	梁川 優子
矢吹自動車教習所		矢部 薫	山口 信雄
山口薬品株式会社		有限会社タロサ	
有限会社みどり薬局		遊佐 久男	横山 憲一
吉澤萬里子	よしじまクリニック	吉島 哲也	
吉田 英策	吉田キクエ	吉田 嘉子	
吉成内科 吉成 毅		文永山 鎌秀院	
若林ヤエコ 愛		渡辺 佳子	渡邊アサ子
渡邊 一美	渡辺 慶子	渡部 純夫	渡辺とくい
渡邊 又夫	渡邊 素子	渡部 喜照	渡邊 廣孝
藁谷 和子			

20. 一般寄付者

株式会社アポロガスほっとリビング	亀山 綾子
菅野 光枝	菅野美恵子
今野 孝敏	三瓶 弘次
穴戸 俊子	穴戸 幸雄
穴戸 俊子	穴戸 悠子
田邊 実	二階堂晃子
福島いのちの電話バザー会	
福島いのちの電話南相馬支部	
福島県民共済生活協同組合	横田多恵子
	渡部信一郎

各種団体等からの補助金・助成金

福島県自殺対策緊急強化事業民間団体補助金
 社会福祉法人福島県共同募金配分金

あなたもボランティアの仲間になりませんか

相談員になる

会員になる

講演会を聞く…などなど様々な参加方法があります。

福島いのちの電話にあなたの善意を…

いのちの電話の運営資金の多くは、民間の個人・団体（企業）の善意により支えられています。電話相談員の養成費・研修費・施設の賃料などの運営にも充てていますので、ぜひ、あなたも会員として福島いのちの電話を支えてください。

個人維持会員（年額一口）：1万円 5千円 3千円 2千円

団体維持会員（年額一口）：10万円 5万円 3万円 1万円

賛助会員（任意の金額を随時にお寄せください。）

お振込のご案内 名義は社会福祉法人福島いのちの電話です。

郵便振替：02140-7-16968

他の金融機関をご利用の方は、事務局までお問合せください。

「社会福祉法人福島いのちの電話」の会費及び寄付は、税法上の優遇措置が受けられます。

匿名希望の方は、お申し出下さる様お願い致します。

※優遇措置を受けられる税金（所得税、個人県民税、一部の市町村は個人市町村民税も）

福島いのちの電話	理事長 丹羽真一	TEL 024-536-0032 FAX 024-536-2840
喜多方支部	支部長 遠藤栄子	喜多方市上江3646番地1 (喜多方市社会福祉協議会) TEL 0241-23-3231
南相馬支部	支部長 村田純子	南相馬市原町区小川町322-1 (南相馬市社会福祉協議会) TEL 0244-24-3415
郡山支部	支部長 柳沼純子	郡山市朝日1丁目29-9 (郡山市社会福祉協議会) TEL 080-2843-0268

郵便振替 02140-7-16968 名義：社会福祉法人福島いのちの電話



年中無休 午前10時～午後10時

(毎月第3土曜日は午前10時から翌日午前10時まで)

ひとりぼっちで悩まずに

しみじみ
TEL **024-536-4343**

フリーダイヤル 毎月10日 午前8時～翌朝8時

自殺予防いのちの電話

なやみ ころ
TEL **0120-783-556**

〈相談時間〉午前10時～午後10時(3日前までに予約)

ふくしま寄り添い(予約制)フリーダイヤル

ころ いちばんやさしく
TEL **0120-556-189**

〈相談時間〉午前10時～午後10時

ナビダイヤル

なやみ ころ
TEL **0570-783-556**

〈福島いのちの電話では、掛けてくれた方の相談内容をよりよく聴くために、相談員の研修目的に限り電話を録音しています。〉

ホームページ

<https://www.fukushima-inochi.com/email-consultation.html>

社会福祉法人
福島いのちの電話

事務局／〒960-8691 福島中央郵便局私書箱15号

TEL.024-536-0032 FAX.024-536-2840

URL <http://www.fukushima-inochi.com/>

